

# 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	港区
学 校 名	大阪市立弁天小学校
学校長名	原田 聡

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・弁天小学校では、第6学年83名

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語と算数の平均正答率はいずれも52%であった。大阪市平均と比べると、国語は12%、算数は10%下回った。理科の平均正答率は51%で、大阪市平均を9%下回った。また、平均無回答率は、国語が8.6%で大阪市よりも3.8%高く、算数は6.8%で大阪市よりも3.5%高いという結果であった。理科は5.5%で大阪市よりも1.6%高い結果となった。

質問紙調査では、「自分でやると決めたことは、やり遂げる」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦する」という質問について肯定的な回答の割合が大阪市の平均を上回った。また「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問について、肯定的な回答の割合が大阪市の平均より、わずか0.1%ではあるが上回ったことは、大変喜ばしい結果である。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

#### 〔国語〕

様々な文章にふれることで文章に親しみ、表現する力をはぐくむ視写の取り組みを継続して行っている。その成果が少しずつ表れている。「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」という出題について、大阪市の正答率を上回った。一方で、漢字については課題が残った。3問出題された漢字の無解答率が「13.4 13.4 22.4(%)」であった。ほかの問題と比べて高い無解答率である。大阪市の学力向上の取り組みである「ブロック化による学校支援事業」を活用して5年生、6年生全員が漢字検定を受検しているが、受検に向けて学習意欲を高める取り組みの見直しが必要である。

#### 〔算数〕

図形の性質や構成については、2問出題されていたが、平均正答率が「73.2 62.2(%)」と他の問題と比べても高い正答率であった。一方で、果汁が含まれている飲み物を半分にしたときの、果汁の割合について問われたものについて、「数量が変わっても割合は変わらない」ことが、理解できていない児童が多かった(正答率24.4%)。実生活に即した具体的な体験を伴う学習を通して、数量について実感を伴って理解させるような工夫が授業に必要である。

#### 〔理科〕

記述式の問題の平均正答率が27.2%と低い結果となった。実験で得た結果を分析・解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題については、13.4%と極端に低かった。実験結果の具体的な数値やそこから分析した内容などを根拠として、自分なりに表現する機会を多くとることが大切であると考え。

### 質問紙調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」という自尊感情を問う質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は69.8%であり、大阪市より6.9%低い結果となった。4つの選択肢の中で最下位である「当てはまらない」と回答した児童の平均正答率を調べたところ、国語・算数・理科ともに全体の平均正答率を下回っていた。自尊感情が学力と大きく関係していることが浮き彫りになった。

「将来の夢や目標を持っていますか」という質問では、肯定的な回答をした児童の割合は66.2%であり、大阪市より12%も低かった。こちらについては、「当てはまらない」と回答した児童の平均正答率は、ほぼ全体の正答率と同じであり、夢や目標を持つことと、学力との相関関係はないという分析結果であった。

## 今後の取組(アクションプラン)

### ○ 基礎学力の向上と表現力の育成

「学力向上支援チーム事業（重点支援）」を有効活用する。学びコラボレーターや学力向上支援サポーターが授業に入り込むことによって、児童の学力の底上げを図る。また、放課後の学習支援にも活用し、基礎学力の向上を図る。表現力の育成については、多くの文例に触れることで表現方法を獲得するために視写の取り組みを継続して行う。

### ○ 個を尊重する教育

児童の自尊感情を高めるための取り組みとして、他者から称賛される機会を増やす。漢字検定に合格した児童の周知に工夫を加えたり、タイピング大会等、自分の得意なことを認めてもらえるような取り組みを企画・実践する。

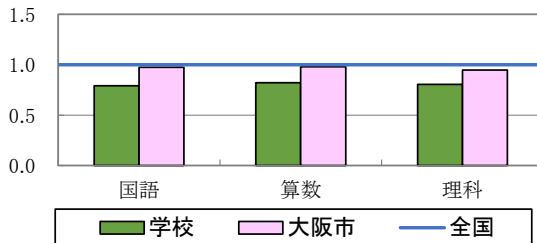
また、将来の夢や目標を持つことができるように、引き続き、校長経営戦略支援予算の活用により出前授業や社会見学を計画・実施し、多くの「ひと・もの」に触れることで、豊かにたくましく生きる素地を養っていく。

# 【 全体の概要 】

## 平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	52.0	52.0	51.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3

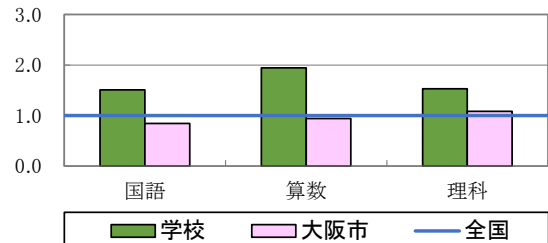
平均正答率(対全国比)



## 平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	8.6	6.8	5.5
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6

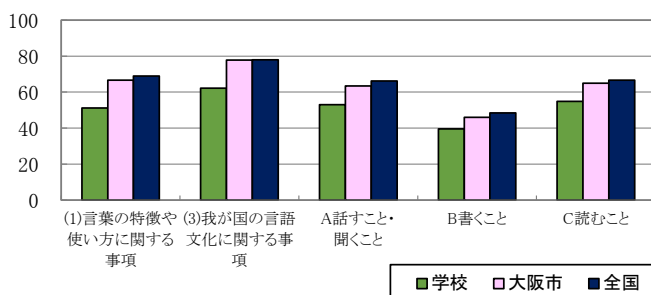
平均無解答率(対全国比)



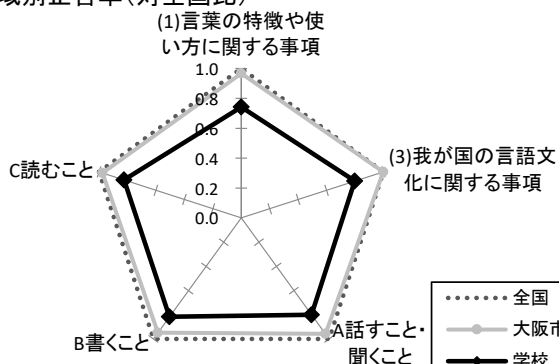
## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	5	51.2	66.7	69.0
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語 文化に関する事項	1	62.2	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	53.0	63.4	66.2
B 書くこと	2	39.6	46.0	48.5
C 読むこと	4	54.9	65.0	66.6

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



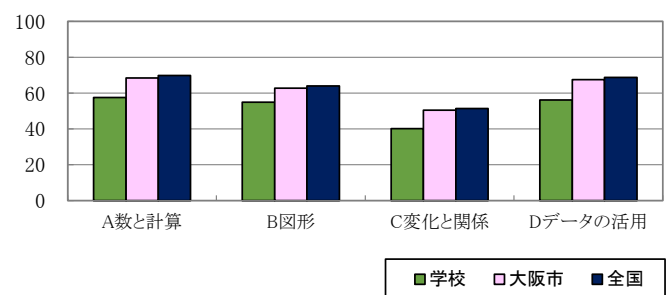
国語 領域別正答率(対全国比)



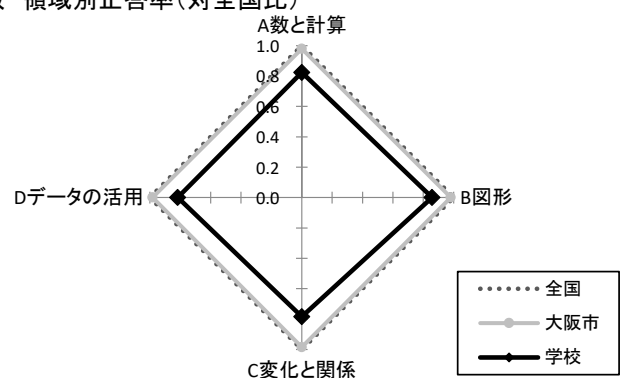
## 【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	57.5	68.4	69.8
B 図形	4	54.9	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	40.2	50.5	51.3
D データの活用	3	56.1	67.5	68.7

算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)

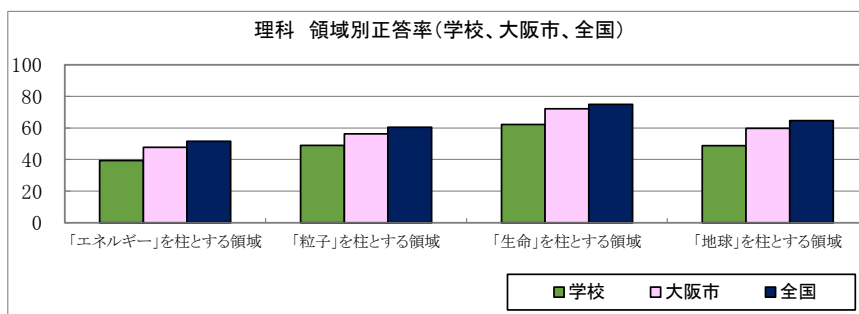


算数 領域別正答率(対全国比)

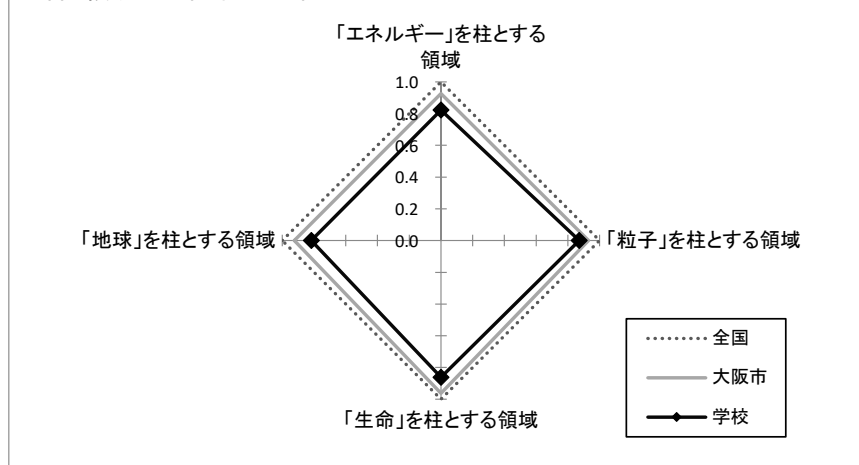


# 【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域		対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	39.3	47.8	51.6
	「粒子」を 柱とする領域	5	49.0	56.2	60.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	5	62.2	72.2	75.0
	「地球」を 柱とする領域	5	48.8	59.7	64.6



理科 領域別正答率(対全国比)



# 児童質問紙より

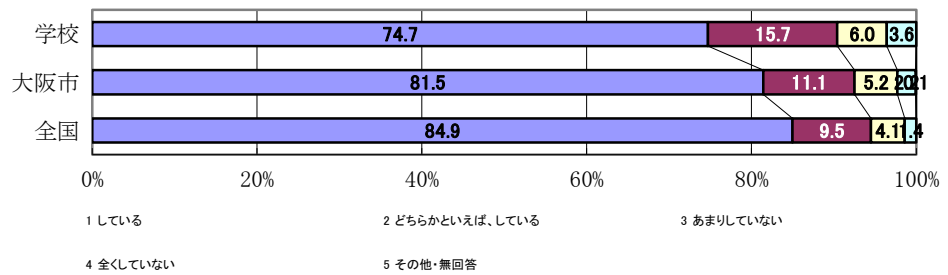
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

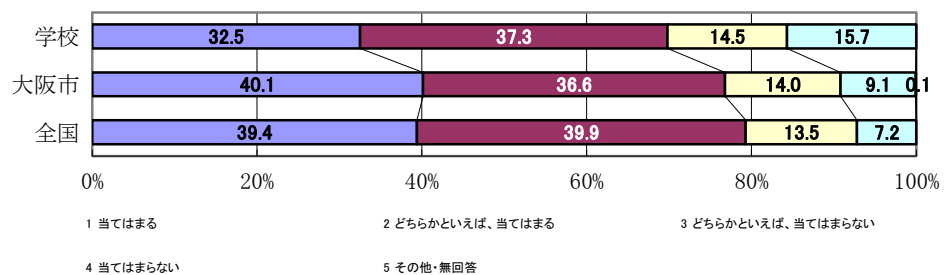
1

朝食を毎日食べていますか



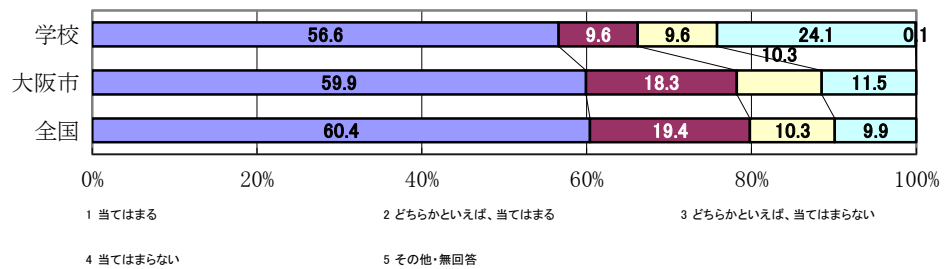
7

自分には、よいところがあると思いますか



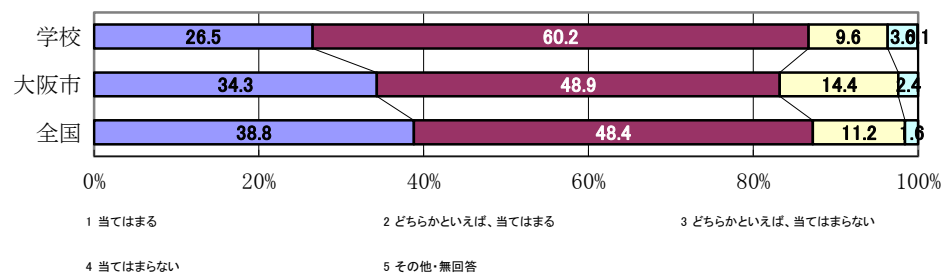
9

将来の夢や目標を持っていますか



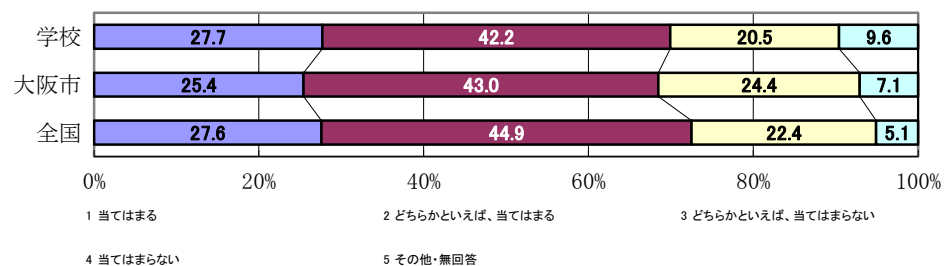
10

自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか



11

難しいことでも、失敗を恐れないうで挑戦していますか



# 児童質問紙より

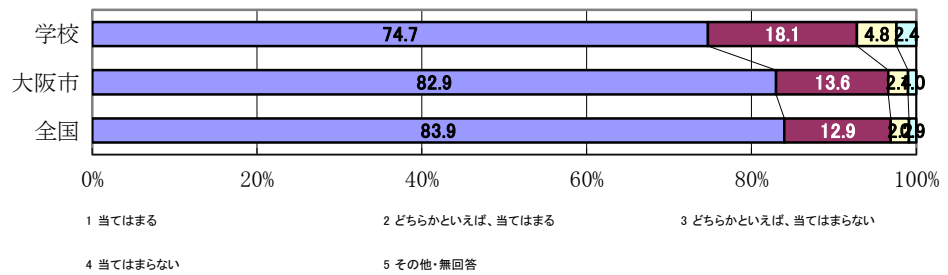
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

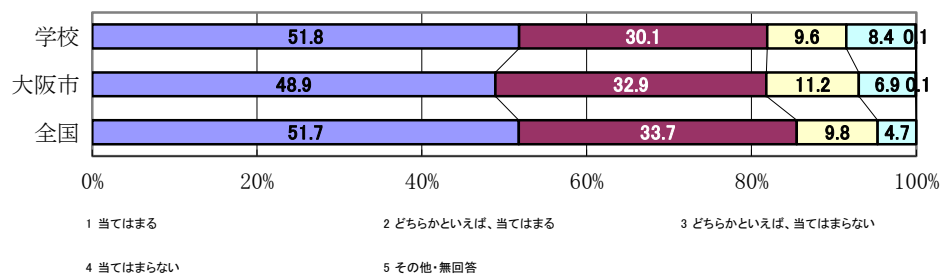
13

いじめは、どんな理由があってもいけな



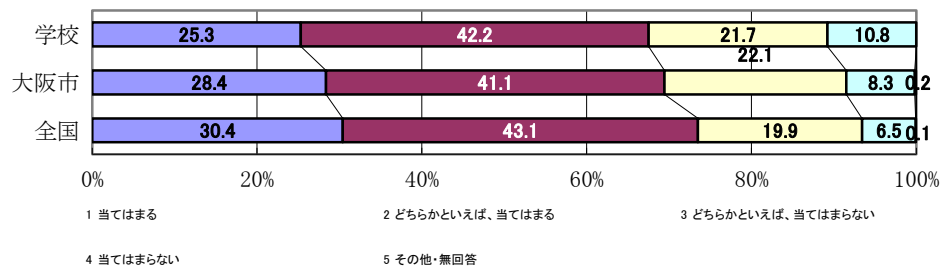
16

学校に行くのは楽しいと思いま



17

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いま



26

読書は好きですか

